

## 令和4年度 長野市消防委員会（議事内容）

- 日 時：令和4年11月2日（水）午後3時00分から午後4時25分まで
- 場 所：長野市消防局中央消防署 4階会議室
- 出席者：委 員 15名（1名欠席）  
消防局、消防団 17名

### 1 開 会 （午後3時00分）

### 2 委嘱書交付 （午後3時05分）

### 3 会長あいさつ （午後3時07分）

会長の原田です。どうぞよろしく申し上げます。

委員の皆様方には、公私とも大変お忙しい中、ご出席を賜りましてありがとうございます。新型コロナウイルス感染拡大の影響で、延期となっておりました当委員会でございますが、感染が若干落ち着いたということで、本日、開催することになりました。日程の変更に伴い、皆様方には、ご迷惑をおかけしました。重ねて感謝を申し上げます。

本年は任期2年目となりますが、3名の委員さんが、交代されております。新しい委員の皆様とともに、より良い消防体制構築のため、活発なご意見を頂きたいと思っておりますので、どうぞよろしく申し上げます。

さて、当委員会につきましては、昨年度、市長からの答申に基づき、地域防災の重要な要として活躍される消防団が、持続可能な組織となるよう、「定員数と組織の見直し」、「大規模災害団員制度の導入」及び「処遇改善」3項目について、皆様からの意見を取りまとめ、答申を作成したところでございますが、昨年9月21日に市長室におきまして、当委員会を代表して、私から市長に対して答申をさせていただきました。答申の内容と結果につきましては、後ほど事務局から説明がありますが、委員の皆様にご答申の取りまとめにあたり多くのご意見、また、ご協力をいただいたところでございます。この場をお借りしてお礼を申し上げます。ありがとうございました。

さて、令和元年東日本台風災害から3年が経過しましたが、その間も台風や豪雨による災害が各地で毎年のように発生しております。昨年は、静岡県熱海市の災害、今年は、九州地方や東北地方での災害、また、ここ長野市においても8月上旬の大雨で住民の方がお亡くなりになるといった大変痛ましい災害も発生しております。

また、新型コロナウイルスの感染症についても、第6波の後すぐに7波ということになりまして、過去最高の感染者数を記録するなど、終息はいまだ見えない状況でございます。このような自然災害や感染症の流行といった状況の中で、消防局、消防団の皆さんの役割や重要性は、益々増しており、私たち市民のために、昼夜を問わず御尽力をいただいておりますことに対し、市民を代表して選任されております本委員会といたしまして、深

く感謝を申し上げます。

さて、本日は、「中山間地における消防団動員力の確保について」が議題とされております。昨年の答申に引き続き、消防団の皆さんがよりよい環境のもと活躍できるよう、委員の皆さんからご意見をいただきたいと思っておりますので、どうぞよろしく申し上げます。

最後となりますが、本委員会が実りあるものとなりますよう御協力をお願いしまして、簡単ではございますが、挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願ひいたします。

#### 4 あいさつ（午後3時10分）

##### 【佐伯長野市消防局長】

委員の皆様方には大変お忙しい中お集まりをいただきまして感謝を申し上げます。また、平素、消防行政に対しまして、御理解、御協力をいただいておりますことに関しまして、お礼を申し上げます。

昨年度、本委員会の皆様方には、長年の課題でございました、消防団組織の定数見直しまた、処遇改善に係る諮問につきまして御協議をいただき、最終的な答申書としてとりまとめをいただきましたことに関しまして、改めて感謝とお礼を申し上げます。本日は、答申後の経過をご報告させていただくとともに、消防団幹部の皆さんを中心に検討されております、今後の組織見直しについて、ご意見等をいただければと思っておりますので、重ね重ね宜しくお願ひを申し上げます。

さて、本年度も下半期に入っておりますが、主な動向につきまして、ご報告をさせていただきます。

まず、長野市消防局といたしましては、19か所目の消防署所といたしまして、本年5月1日から豊野分署を開設し、消防・救急業務を開始いたしました。この事業におきましては、長年地元からの強い要望があり、更に令和元年の東日本台風災害により、大きな被害を受け、長野市災害復興計画の中に市東北部の消防力の強化が盛り込まれたことから、検討の結果、最小の経費で最大の効果を発揮することを主眼に置きながら、豊野支所及び隣接をいたします消防コミュニティーセンターを改修して事業推進をさせていただきました。

開署から6カ月が経過いたしますが、10月末現在261件の救急需要に対応し、平均しますと一日あたり1.4件の出動となっております。また、その他、火災、調査出動等にも出動しておりまして、住民の方々からは感謝のお言葉をいただいている状況でございます。

次に、本年は、7年に一度の盛儀でございました「令和4年 善光寺御開帳」の開催に伴いまして、消防局では「消防特別警戒体制期間」として4月3日から6月30日までの間、特別警戒エリアを定めまして、救急隊を増強するなどの対応をまいりました。期間中当該エリア内で、59件の救急需要に対応し、その内 参拝者の方40人の搬送を行いました。高齢者の方を中心に、急病や転倒による一般負傷が主な内容でございました。

次に、「地域防災力の向上」について申し上げます。防災のリーダーとして必要な知識や技術を身に付けていただくため、市内すべての自主防災組織の代表者及び防災指導員の方々を対象に、各地区で研修会を開催いたしました。

研修内容といたしましては、「避難行動要支援者」の避難対策や「マイタイムラインの作成」を取り上げるとともに、地元消防団との合同研修とすることで、顔の見える関係を構築し、地域と消防団の連携強化による防災力の向上を図っているところでございます。また、今年度からは、「自主防災活動の手引き」の内容を充実させるとともに、令和元年東日本台風災害を教訓としまして、適切な避難行動の重要性について再認識しましたので、避難訓練、情報伝達訓練など訓練の目的を明確にし、実施方法を例示した「防災訓練実施マニュアル」の作成など、より効果的な研修となるよう取り組んでいるところでございます。

次に、「消防局管内の救急出動の概要」について申し上げます。本年1月から10月末日までの救急出動件数は、17,538件で、前年比プラス2,019件、13%増という状況でございます。一日平均にいたしますと約58件で、約26分に1回の割合で出動している状況でございます。内訳としましては、急病が全体の約68%、次に一般負傷で全体の約15%という状況でございます。搬送者の方は、65歳以上の方々が全体の約7割を占めております。また、新型コロナウイルス感染症の関係では、一昨年から関連事案の救急出動が約7,000件ありまして、陽性者の方の搬送も800人を超しているような状況でございます。救急業務におきましては、市民の皆さんの生命身体に直接係る業務でございますので、安定した業務が継続できるよう、職員の感染防止に関しましては、公私ともに細心の注意をはらっているところでございます。また、都市圏では救急搬送困難事案も話題に上がるところでございますが、私ども管内におきましては、公的医療機関等充実した医療機関の数が多く、大変救急医療にもご理解をいただいていることから、救急隊からの電話回数1回での収容が全体の約92%、2回では99%が収容に至っている状況でございます。また、熱中症に関しましては、4月から9月末日までで170人の方々を搬送いたしました。前年比プラス39人という状況の中、特に記録的な暑さとなった6月には、前年の4倍にあたる48人の方を搬送しております。このように年々増加傾向にございます救急出動におきましては、特に長野日赤さんとか市民病院さんの御協力をいただきながら、救急ワークステーションの運用をさせていただき質の高い救急業務を目指しております。

次に、「火災発生状況について」申し上げます。本年1月から10月末日までの、消防局管内の火災発生件数は77件でして、前年比マイナス11件という状況でございます。原因に関しましては、たき火が18件、火入れ、ストーブ、こんろ、たばこが、各5件となっております。また、火災により亡くなられた方は、本年は8名となっております、昨年1年間の5名を上回っている状況でございます。今後は、11月9日から15日までの間、「秋の火災予防運動」を展開する中、各種広報を通じまして、悲惨な火災が発生しないよう努めてまいります。そのような中、9月6日台風接近に伴います強風の影響により、上野3丁目が発生した火災については、住宅など18棟に影響を及ぼす、大きな火災となりました。後ほど、詳細説明をさせていただきますが、私から概要について触れさせていただきます。当日は、早朝、気象台から火災気象通報が発令される中、台風による影響から強風が見込まれましたので、出動体制は通常より増強をしている中、消防車両18台、職員77人が出動して、消火活動を行い、鎮火までに4時間を要した状況でございました。この対応におき

ましては、通常の当直体制の約3分の2の消防力を投入して活動したような状況でございます。また、消火活動中、3名の職員が負傷いたしました、幸い大事には至りませんでした。今後の大きな教訓として、再発防止に努めてまいりたいと思っております。また、この火災におきましては、9世帯という数多くの方が被災いたしましたので、市長指示に基づきまして、全部局で被災者の方々への支援項目を抽出しまして、消防局で早急に一覧表として整理を行い、被災者の方々へご案内をいたしました。今後も、各種被害に遭われた方々に対しましては、寄り添った対応をしてまいりたいと考えております。このように、市街地での大きな火災に関しましては、平成28年12月、糸魚川市で発生した大規模火災を教訓として、国からの通知等に基づき、市内でも延焼危険が高い区域を指定しまして、予防対策や増強体制の出動計画などを策定しておりますが、今回の火災の調査、検証を行いまして、必要な対策があれば、検討してまいりたいと考えております。

結びにあたりまして、新型コロナウイルス感染拡大が始まって以来、我々の社会生活にも大きな影響を受けております。我々消防は、引き続き市民の皆様からの安全・安心の負託に力強く応えていくことは勿論のこと、地域防災を支える消防団や市民の皆様等と手を携えまして、消防力の更なる充実強化に取り組んでまいり所存でございます。皆様方には、今後とも、より一層のご指導、ご鞭撻をお願い申し上げます。私からの挨拶とさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

#### 【松木長野市消防団長】

消防委員の皆様方には、御多用中にもかかわらず、ご出席をいただき本当にありがとうございます。

さて、昨年、市長から諮問された「将来にわたり安定した消防団組織の構築」についてご協議をいただき、今年度から定数の見直し、大規模災害団員制度の導入、処遇改善等を行うことができましたことについて、あらためてお礼申し上げます。このあと、答申結果に基づく対応について詳細を説明させていただきます。

消防団活動につきましては、コロナ禍で各種行事の中止、縮小を余儀なくされて参りましたが、県の警戒レベルが見直され、感染防止を徹底して、各消防団活動を再開しております。6月に関係各位の協力のもと、令和元年以来3年ぶりに長野市ポンプ操法、ラッパ吹奏大会を開催しました。大会は、小型ポンプ操法の部には8分団、ラッパ吹奏の部に7チームが出場し、ポンプ操法の部は、川中島第1分団が、ラッパ吹奏の部は川中島・更北班が優勝いたしました。また、市大会2位で通過した小田切分団については、7月3日に開催された長野協会大会を勝ち抜き、7月10日に開催された県大会でも長野市として34年ぶりに優勝し、10月29日に千葉県で開催されました全国大会に初出場して参りました。結果は、敢闘賞という成績で、コロナ禍で活動を制限される厳しい状況の中、チーム一丸となって実力を出し切っていただきました。ラッパ吹奏の部についても、県大会で初優勝を飾り、ダブル優勝ということで、活動自粛を余儀なくされた思いを払拭し、団員のモチベーションも向上しているところでございます。

ポンプ操法大会については、団員や家族の負担が大きい等、様々なご意見・ご指摘がありました。昨年度から、内部の検討委員会を立ち上げ、あり方について検討をして参りました。今年度から、大会運営方針を見直し、訓練回数の制限や、分団の都合により辞退も認める等、新たな取り組みも始めております。引き続き、あり方について検討を続けると共に、技術の向上を目的として、訓練を積み重ねて参りますので、ご理解ご協力をお願い申し上げます。

また、昨年の出動状況につきましては、コロナ禍で活動を最小限に制限する中、災害出動や警戒、広報等 365 件、延べ約 1 万 3 千人が出動をし、例年並みの活動実績を残しております。昨年は幸いにも大きな災害はございませんでしたが、今年は 9 月 6 日に 18 棟が燃える上野の火災に 5 分団 74 名が出動し消火活動にあたったほか、10 月 7 日から 9 日には、信州新町でキノコ狩りの男性が行方不明となり、延べ 150 名が捜索に当たるなど、精力的な活動を行っております。今後も、消防団として、気を緩めることなく、即時対応ができる体制をとってまいりたいと思います。

次に、将来にわたり安定した消防団組織の構築につきましては、このあと、現在検討している分団統合等の方向性について説明をしますが、団員の確保が見込めない地域については、より大きな枠組みで機動力や動員力を確保していくことが必要だと考えております。幅広い御意見をいただきながら、組織の見直しを進めて参りたいと思います。

結びに、本日御出席をいただきました、委員の皆様方のますますの御活躍を御祈念申し上げます、挨拶とさせていただきます。

## 5 自己紹介（午後 3 時 26 分）

## 6 議事（午後 3 時 27 分）

### (1) 報告事項

- ア 令和元年東日本台風災害を教訓とした消防力の強化について
  - ・映像及び資料 1 に基づき、小田切消防局参事兼総務課長から説明
- イ 上野地籍で発生した建物火災と被災者支援について
  - ・資料 2-1 に基づき、藤牧消防局次長兼予防課長から説明
  - ・資料 2-2 に基づき、笠井予防課長補佐から説明
- ウ 令和 3 年度の答申に基づく結果について
  - ・資料 3 に基づき、南島警防課長補佐から説明

### 【原田会長】

このことについては、私が会を代表して昨年の 9 月、市長さんに答申をしております。市長さんからその際に、答申の取りまとめについて委員会への感謝の言葉をいただいております。また、消防団の活動は大変重要なので長野市としてもしっかり取り組んでいく、答申を十分に参考にさせていただく、といったご発言がありましたので、皆様にお伝えしたいと思います。

## (2) 協議事項

### ア 中山間地における消防団動員力の確保について

- ・資料 4-1 に基づき、片桐消防団副団長から説明
- ・資料 4-2 に基づき、鈴木消防団副団長から説明

#### 【A委員】

ただいま協議事項ということで、中山間地域の消防団確保ということでお話をいただきましたが、これはだいぶ前から問題となっていたことですのでけれども、私も中山間地域に住んでいる一人として、やはり若い団員さんが少なくなっているというのは、実態として見てきています、また、資料で示していただいたように中山間地域につきましては、激減してきているような状況がみられますので、この分団の統合というのも非常に大事なことだと思います。それに合わせて機械器具の適正化ですか、そういったことも図っていくといった考え方ですから、今後この方向でしっかり考えて取り組んでいただければ良いのかなというふうに感じています。それから、今回は中山間地域だけのことですが、資料を見ると、都市部の方でも団員さんが高齢化したりして、減ってきているのも見えますので、そこらへんもまた中山間地だけに限らず、どのようにしていったら良いのか、分団の統合も併せて考えていただければ良いのかなと感じました。

#### 【B委員】

先ほどからお話を聞かせていただいております中におきまして、今ほどA委員さんの方から御意見がありましたことと同感でございます。やはりこの時期、こうゆう状態になれば、統合は必要かと思っております。資料にありますように、統合して50名になるというのは解るのですが、統合して50名というのは人数的には変わってはおらない、まあ、成り手が少なくなってくれば、きっと50名が45名になったり、40名になったりするかなと考えられます。ここにきて減ってきたのは、やはり団塊の世代の人たちが70歳を超えてきている中において、消防団だけではなくて、いろんな企業においても人手が足りない、ベテランの人たちがいなくなってしまった。消防もそうですが、そんな中で、成り手が少なくなっているのかもしれないかなというところです。

そんな中、先程もありましたように大規模災害においてOBの方を動員して、豊かな知識を発揮していただくことは本当にいいことだと思っております。それと、統合、合併というのは非常に難しいところがありまして、やはり、消防団員の皆さんがやりやすいようにするのが一番だとは思いますが、伝統のある消防団や分団というのは、先輩の方のご意見もいろいろあろうかと思えます。また、地域が一緒になると行政関係がいろいろなところを一つにしなればいけないといった、その辺のところも研究していただき、良い方向に、是非、進めていただきたいと思いますと思っております。

#### 【B委員】

先ほど説明がありました個人の装備品で、消防団員には装備が貸与されるとのことですが、

大規模災害に出動する団員の方には、どの程度の装備とかが貸与される予定なのか教えてください。

**【片桐消防団副団長】**

大規模災害に出動する団員の方も同じように貸与すると考えていただいて良いです。

**【B委員】**

それでは、そういう方にも、この装備は貸与されるということですね。わかりました。

**【原田会長】**

大変貴重なご意見をいただきました。いろいろな工夫をして効果的、効率的な消防団活動に結び付けるため、大変ご苦勞もあるかと思えます。また、時代の変化の中で、非常に大きな課題があるということで、なかなか一長一短にはいかないこともあるかと思えますが、十分にご検討いただいて、消防団の皆さんがよりよい活動ができますよう、進めていただければと思います。

7 その他（午後4時17分）

**【佐伯消防局長】**

長時間に渡りまして、いろいろご説明をさせていただき、御意見をいただきまして誠にありがとうございました。本日は御説明のとおり地域愛護の精神に基づきまして、正業の傍ら消防団の方々には非常に各種災害においてご尽力をいただいているところでございます。やはりそういう組織が、地域住民の方々にとって将来にわたりまして安定して組織維持ができることが重要であると思っております。今回、ご検討いただいているような方策も得ながら、また、団員確保策といたしましては、学生消防団認証制度も始めておりまして、学生さんにも消防団に興味を持っていただけるような方策も講じさせていただいております。いずれにいたしましても、消防団は大切な組織でありますので、今後もよろしく願いいたします。

私たち常備消防に関しましては先程頼からご説明をさせていただいておりますけれども、今後、いつ何時、大きな災害が起こることが予想されております。有事の際は、私たち消防局だけの力では限界がありますので消防団の方々の御協力をいただきながら、東日本台風災害が3年前ですけれども、県内の消防本部からの応援隊をいただき、緊急消防援助隊で県外からも応援をいただいて、救助活動をいただいております。去年は逆に10年ぶりに熱海市の土石流災害に長野市が出動して活動した状況でありました、私たち消防といたしましては、全国的な消防力をもって災害に際しまして最大限に努力していく所存でございますので、今後も皆様方にもわたくし共に御支援、御協力をよろしく願い申し上げまして、お礼の言葉とさせていただきます、ありがとうございました。

8 閉会（午後4時25分）